

# 外壁材の販売・施工を主体に 『天然砕石パイル工法』にも着手



代表取締役

内原 宜典

## 株式会社 アクティックス

兵庫県明石市魚住町西岡 993-2

URL : [www.hyspeed.jp](http://www.hyspeed.jp)



ビル、工場、商業施設、住宅などの外壁や間仕切り壁の販売と設計・施工を手掛ける『アクティックス』。高い技術力と柔軟な対応力が信頼を集める、優良企業だ。本日はタレントの布川敏和氏が同社を訪問。内原社長にお話を伺った。

——はじめに、内原社長が独立されるまでの歩みからお聞かせ下さい。

出身は高知県ですが、一番長く生活していたのは和歌山県です。学校を卒業してから和歌山で建築関係の会社に就職し、22歳で一人親方として仕事を始めました。そして阪神大震災の後、周りからのご要望もあって拠点を神戸に移したんです。こちら、明石に移ったのは2014年で、その翌年に『アクティックス』を設立しました。

——お若くして独立されて、当初はいかがでしたか。

最初から会社の下請けとして独立させていただきましたので、たとえば仕事の確保に困るということはありませんでした。ただ、現場のことは分かっても経営に関しては素人でしたから、そのあたりは苦労しましたね。特に事務処理関係の作業が初めて見聞きするものばかりで、当時は今のようにネットも普及してなくて、調べることもできませんでした。それでも周りの方々に教えていただきながら、色々覚えていきました。キャリアが浅く年齢も若かったのですが、やる気だけはあったのでお声をかけていただくことも多く、人とのつながりのお陰で成長してることができたように感じています。

——努力を重ねてこられたことが窺えます。では、改めて御社の業務内容をお聞かせ下さい。

外壁材の販売と設計、施工がメインで、住宅よりもビルや工場、商業施設などの大きな建物の工事が多いです。その中で5年前から携わるようになり、力を入れているのが天然砕石パイル工法「HySPEED工法」で、現在はその代理店をさせてもらっています。

——どのような工法になるのでしょうか。

地盤改良の工事で、セメントなどの固結材を一切使わず、砕石という天然素材だけを利用し、軟弱な地盤を改良す



るという工事です。従来の地盤改良工事ではセメントが使用され、結果的に産業廃棄物を埋め込むことになっていたんですね。しかもセメントと土が混ざって発ガン性物質である六価クロムが発生するケースもありました。ただ、人間の身体に害のない数値ということで問題視されてはなかったのです。けれどもアスベストと同様、今後は必ず問題になるでしょう。「HySPEED工法」ではリサイクル砕石ではなく、自然石から作られたものを使用するので安全で、人にも環境にも優しい。そうした品質の高さに共感したことから、導入した次第です。

——今後の成長が期待できる分野ですね。会社としての展望はいかがですか。

7年ほど前から、技術指導ということ韓国や台湾の工事にも携わるようになりまして、今後もどんどんと海外に進出していきたくて考えています。具体的には、今後の発展が期待されるフィリピンに現地法人を立ち上げようと計画しています。そうしてグローバルに展開していく中で、自分も成長していけたら嬉しいですね。

(2018年5月取材)

現在は」地盤改良工事にも取り組んでおられる『アクティックス』さん。人にも環境にも良いということで、新たな事業の柱となりそうですね。



布川 敏和